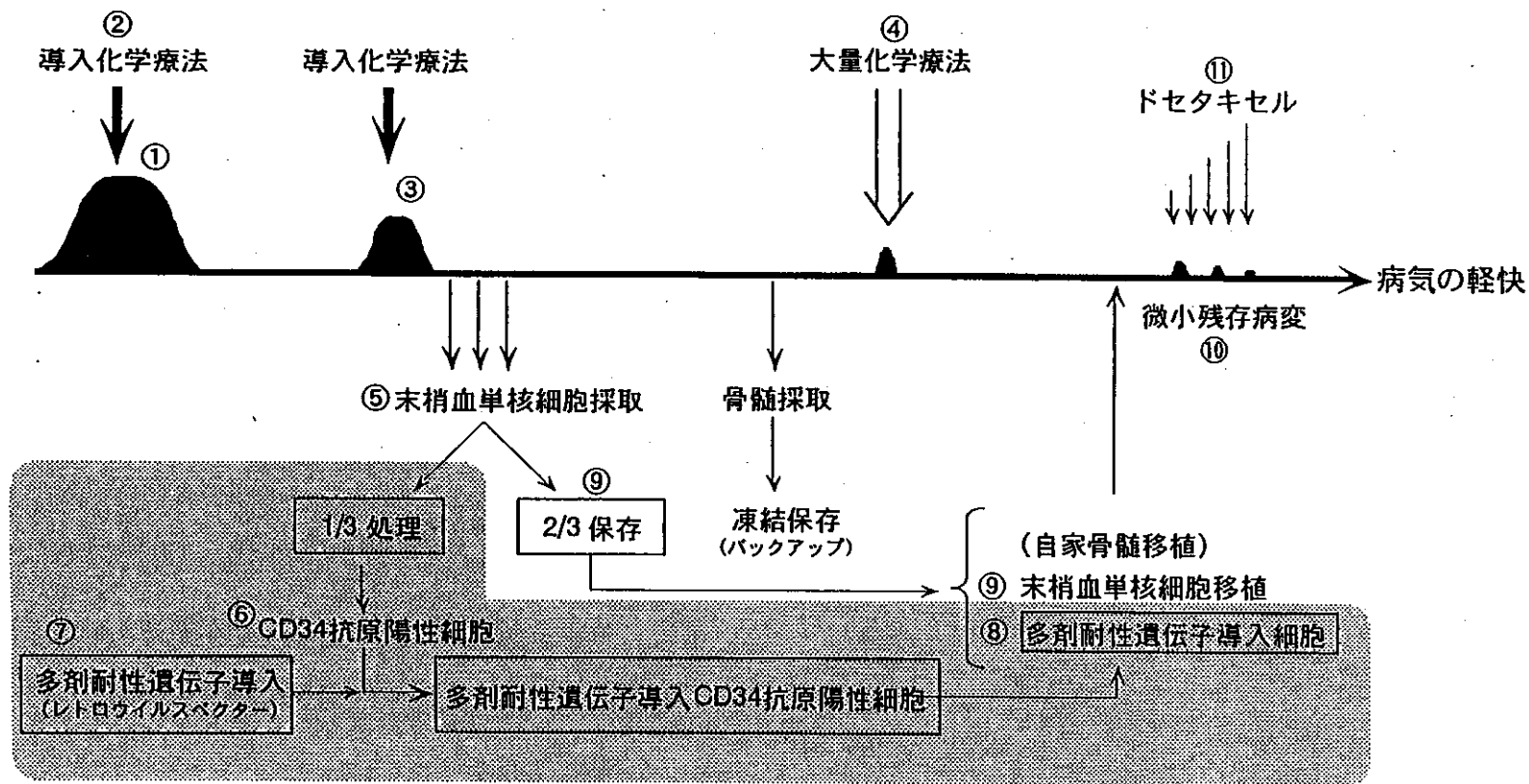


(注:          は遺伝子治療の部分)

## 大量化学療法 + 遺伝子治療の模式図

進行乳癌 (①) に対し寛解導入化学療法 (②) を施行する。腫瘍縮小効果が認められ部分寛解; PR (③) 以上の効果が得られた場合、IC取得の後、遺伝子治療を考慮する。末梢血単核細胞を採取し (⑤)、これの約2/3は無処理にて凍結保存し、約1/3からCD34陽性細胞を分離濃縮する (⑥)。これを標的細胞としてレトロウイルスベクターにて多剤耐性遺伝子を導入する (⑦)。遺伝子導入細胞は凍結保存する (⑧)。移植の準備が整ったところで大量化学療法 (④) を施行する。その後、凍結保存しておいた自己末梢血単核細胞 (⑨) と多剤耐性遺伝子導入細胞を移植する。骨髄再生の後、大量化学療法後の微小残存病変または潜在微小病変 (⑩) に対しドセタキセルの治療 (⑪) を反復し病気の軽快を目指す。



(注：          は遺伝子治療の部分)

## 大量化学療法 + 遺伝子治療の模式図 (2)

進行乳癌 (1) に対し寛解導入化学療法 (2) を施行する。腫瘍縮小効果が認められ部分寛解; PR (3) 以上の効果が得られた場合、IC取得の後、遺伝子治療を考慮する。末梢血単核細胞を採取し (5)、これの約2/3は無処理にて凍結保存し、約1/3からCD34陽性細胞を分離濃縮する (6)。これを標的細胞としてレトロウイルスベクターにて多剤耐性遺伝子を導入する (7)。遺伝子導入細胞は凍結保存する (8)。移植の準備が整ったところで大量化学療法 (4) を施行する。その後、凍結保存しておいた自己末梢血単核細胞 (9) と多剤耐性遺伝子導入細胞を移植する。骨髄再生の後、大量化学療法後の微小残存病変または潜在微小病変 (10) に対しドセタキセルの治療 (11) を反復し病気の軽快を目指す。

# レトロウイルスベクターによる多剤耐性遺伝子（MDR1遺伝子）の導入

